

## 早期の乳房の腫れについて

門別診療所 三浦 耀平

朝はかなり冷え込む季節になり、牧場では離乳もだんだんと落ち着いてくる頃かと思います。この時期、母馬の乳房が腫れてくることがあります。そんな時どのような病気が考えられるのでしょうか。以下に主なものを紹介したいと思います。



### ●乳房炎

乳腺が細菌感染することによって起こります。意外にも、離乳直後よりかは、その数週間後における発生頻度が高いです。乳房は硬く腫脹し、触ると嫌がる様子を見せます。乳汁は正常よりも黄色を呈し膿のようになることがあります。また発熱、食欲不振といった全身症状、酷い場合では後肢の跛行を示します。臨床症状から診断出来る場合が多いですが、分かりづらければ血液検査や乳房のエコー検査が補助的に行われます。乳汁を採取し検査することで、原因菌に対してどの抗生剤が効果を示すのか判定させても良いでしょう。治療は抗生物質や非ステロイド性抗炎症薬を投与する他、頻繁な搾乳も効果的です。乳房炎軟膏を注入される際は少し乳を搾ってから入れると入れやすいですが、馬は他の動物種に比べて乳頭口が小さく、無理に入れようすると馬も嫌がり、乳頭を傷つけたり、人もケガをしかねないので注意して行いましょう。離乳後の飼料摂取量の削減や乳房を清潔に保つことは予防に繋がると考えられます。



写真 乳房炎罹患馬の乳汁 左:正常 右:乳房炎

### ●胎盤炎

陰部から子宮へと侵入した細菌や真菌が胎盤に感染することで炎症を起こし、流産の原因となる病気です。落ちた胎盤は正常と比較し黄色～茶色くらいの変色があります。症状としては、乳房の腫れの他に、乳もれや外陰部からの滲出液を認める場合があります。但し、本疾病ではこれらの症状を示さないまま突然流産する症例にも遭遇します。よって、症状が見られる前から早期発見、予防する事が大切であると言えるでしょう。具体的にはエコー検査により子宮頸管に近い所の胎盤の厚みを測定したり、母馬の血中のホルモン値を測定したりする事で診断が可能です。過去に流産歴のある馬や高齢により陰部の形が悪く、感染リスクの高い馬は今述べたような検査を定期的に行うと良いかと思います。治療には主に抗菌剤、子宮収縮抑制剤、黄体ホルモン製剤が用いられます。離乳後も母馬の乳房のこまめなチェックがかかるせません。早期の乳房の腫脹が見られたら、それ以外に現れている症状をみながら病気を判別し、対処していきましょう。